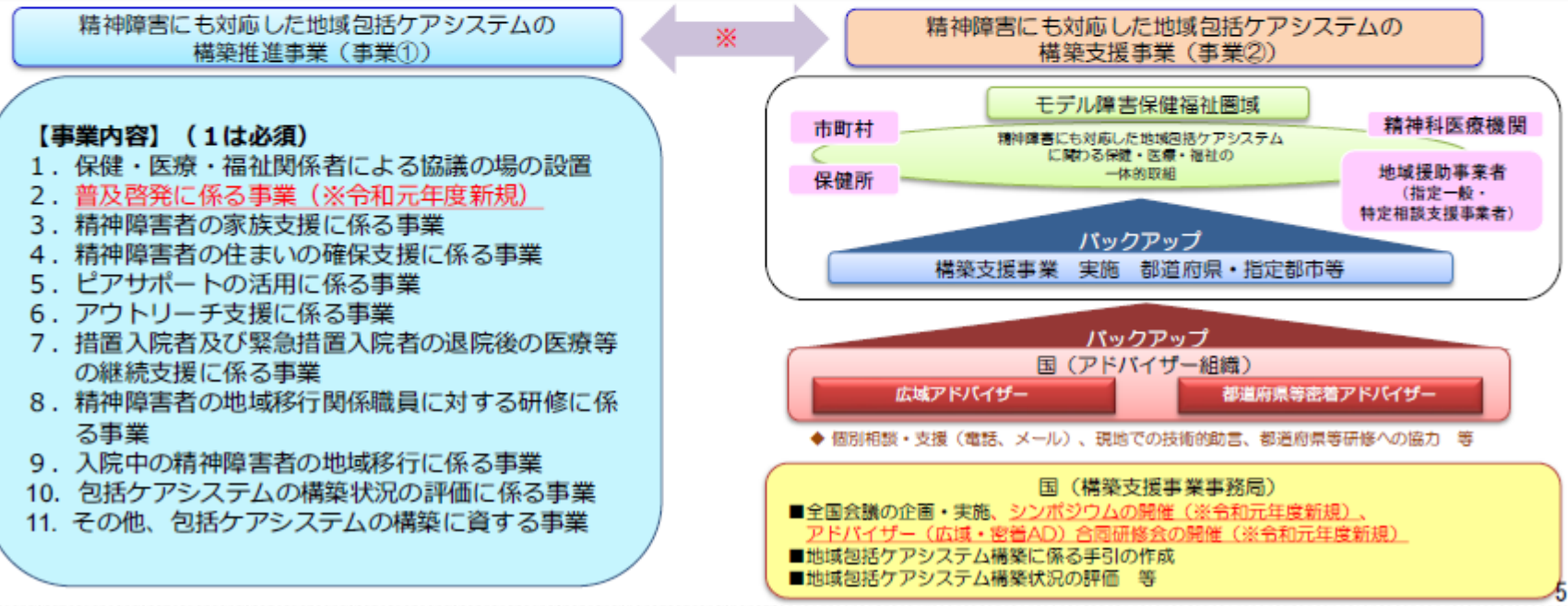


鳥取県西部圏域における 精神障害にも対応した地域包括 ケアシステムの構築に向けた取組 について

鳥取県西部総合事務所福祉保健局
障がい者支援課 保健師 岩田全広

事業の内容

- ① 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進事業（地域生活支援促進事業）
令和元年度予算：532,733千円（平成30年度予算：515,642千円）
 - ② 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築支援事業
令和元年度予算：40,579千円（平成30年度予算：39,405千円）
※地域生活支援事業、社会福祉施設等施設整備費計上分除く
- ①…障害保健福祉圏域ごとの保健・医療・福祉関係者による協議の場を通じて、精神科病院等の医療機関、地域援助事業者、自治体担当部局等の関係者間の顔の見える関係を構築し、地域の課題を共有化した上で、包括ケアシステムの構築に資する取組を推進する。
＜実施主体＞ 都道府県・指定都市・特別区・保健所設置市
- ②… ◆国において、地域包括ケアシステムの構築の推進に実践経験のあるアドバイザー（広域・都道府県等密着）から構成される組織を設置する。
◆都道府県・指定都市・特別区は、広域アドバイザーのアドバイスを受けながら、都道府県等密着アドバイザーと連携し、モデル障害保健福祉圏域等（障害保健福祉圏域・保健所設置市）における、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する。
◆関係者間で情報やノウハウの共有化を図るため、ポータルサイトの設置等を行う。
＜参加主体＞ 都道府県・指定都市・特別区
- ※ ①及び②の事業はそれぞれ単独で実施することも可能



西部圏域のこれまでの取組

■事業の経過

平成15年度 県西部圏域で長期在院患者退院促進モデル事業を実施
～
・長期入院患者の個別支援に取り組む

平成17年度

通常の支援では退院が困難な患者に対し、多職種多機関が協力して退院を促進

・精神保健ボランティアから「自立支援員」(後の地域移行推進員)を養成

平成18年度 精神障害者退院促進支援事業として全県で実施

平成19年度 強化事業推進プロジェクト会議発足

- ・医師、看護師、精神保健福祉士、各保健所、精神保健福祉センター、県庁主管課で構成
- ・人材育成と事業全体の底上げを目的とする。

平成24年度 個別支援が地域相談支援給付として一般制度化

- ・希望のあった精神科病院へ「個別給付説明会」開催

平成27年度～28年度 入院患者への地域移行支援の説明会

平成29年度 障がい者を地域で支える仕組みづくり事業(モデル事業)準備期

平成30年度～現在 障がい者を地域で支える仕組みづくり事業(モデル事業)

西部圏域の特徴(強み)

1. 長年取組を継続する中で、
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進する基盤ができて
いる。
2. 医療機関と地域の支援者との、
顔の見える関係性が築けている。

事業の内容

- (1) 協議の場
- (2) 退院可能入院者への
地域支援者の病院訪問
- (3) 地域交流会(いろどり会)
- (4) 事例検討会

(1) 協議の場

会議名	内 容	開催回数
地域移行・地域定着に係る関係機関協議 (H29年度～)	地域の実情に精通する者で組織し、地域移行の方向性について協議する。	4回／年
地域移行連絡会 (H16年度～)	医療機関、福祉関係機関、行政機関の実務者で組織し、社会資源の活用と関係機関の連携について協議する。	2回／年
地域移行推進会議 (H16年度～)	医療機関、福祉関係機関、行政機関の代表者で組織し、必要な社会資源、支援体制について協議する。	1回／年

※広域アドバイザー、県密着アドバイザーからの助言



悩み1

これまでは、地域移行・地域定着の方向性や企画において、行政主導であった。
もっと、西部圏域の実情に沿った取組をしていきたい。



地域移行・地域定着に係る関係機関協議

(2) 退院可能入院者への地域支援者の病院訪問

- ①対象者：何らかの支援があれば退院可能な長期(概ね1年以上)入院患者
- ②方 法：長期入院患者に対し、市町村及び相談支援事業所が病院訪問を行い、退院に向けた支援を行う。
- ③状 況

状 況 (令和元年9月末)	対象者(人)
宿泊型自立訓練施設へ退院	2人
地域支援者における支援を継続中	9人
病状悪化に伴い、現在対応を保留中	2人
高齢者施設へ入所	2人



悩み2

630調査等で入院患者数は分かるけど、
どうやって地域移行進めていこう…

患者個人、個人によって、支援方法は違っだろうし…
病院だけでの取組では限界があるし…



退院可能入院者への地域支援者の病院訪問

(3) 地域交流会(いろどり会)

- ①対象者：入院患者で、病状が安定しており、地域移行のための支援を必要とする者(主治医の許可がある者)、その家族
- ②方法：退院後の生活がイメージできるよう、地域の支援者(相談支援事業所、市町村保健師、地域移行推進ボランティア、ピアサポーター等)と共に「働く場所」「活動の場所」「住む場所」を見学し、交流を行う。
- ③状況

	日程	内 容	参加者 (当事者)
1	6 / 8	<ul style="list-style-type: none">・働く場所：あんず・あぷりこ(就労継続支援B型)・住む場所：はばたき(宿泊型自立訓練施設)・ランチ交流：あんず・あぷりこ	23(5)
2	11 / 2	<ul style="list-style-type: none">・働く場所：あかり広場(就労継続支援A・B型)・活動の場所：あかり広場(生活介護)・住む場所：ピアットあかり(グループホーム)・ランチ交流：オッティアーノ(あかり広場)	19(3)
3	3 / 12	<ul style="list-style-type: none">・働く場所：よなご大平園(就労継続支援B型)・活動の場所：よなご大平園(生活介護)・住む場所：よなご大平園(グループホーム)・ランチ交流：すたみな太郎	29(8)



悩み3

長期入院患者が入院している間に世間は様変わり、
入院患者が地域に戻ることを怖がる・
意欲が低下している。

地域は楽しいところと伝えていくためには…



地域交流会(いろどり会)

(4) 事例検討会

- ①対象者：保健・医療・福祉関係者
- ②方 法：実際の処遇困難事例を用いて、グループワークにて事例検討を行う。
- ③状 況

	日程	事 例 内 容	参加者 (人)
1	5/15	「本人が受診につながる方法を検討する」	15
2	7/17	「支援を希望されても拒否がみられる。 どのように関わったらよいか」	13
3	9/18	「家族から受け入れられず、 生きがいが無い悔しさに対する支援」	19
4	11/20	「強度行動障害の方の支援者の対応 を知りたい」	16
5	1/22	「他者とコミュニケーションが取れない 児童の将来について」	15
6	3/19	「長期入院中の方で、支援の方向性が 定まらない」	14

成果1

病院訪問

地域交流会

事例検討会

- 地域の支援者：病院に入ることに抵抗がなくなる。
医療機関：地域の支援者の受け入れ体制の確立。



関係機関の理解と連携の足掛かりへ

- 顔をあわせて、共に困難事例を検討する。



参加者のケアマネジメント能力の向上

関係機関の連携の強化

成果2

病院訪問

地域交流会

事例検討会

入院患者の家族は、患者が退院し、
地域に戻ることを反対することも多い。



家族にも地域交流会へ参加してもらい、地域で生活
している障がい者の姿を見てもらうことで、
退院に対する理解に

成果3

病院訪問

地域交流会

事例検討会

- 「見学することで、働くことの不安が減った」
「一人暮らしだと寂しいので、グループホームが良い」
「ここのグループホームに住みたい」



具体的なイメージを持って、退院意欲の喚起に

※ピアサポーターは先行く先輩。発病し、急性期から現在の生活に至った経緯を話してもらうことで、より具体的なイメージにつながり、入院患者の私もできるかもという自信に

今後の課題1

西部圏域に住所地がある患者は、
必ずしも西部圏域の病院に入院している
訳ではない。



圏域を超えた事業実施

ReMHRAD

https://remhrad.ncnp.go.jp/view_hospital_dat ReMHRAD - 地域精神保...

鳥取県

表示方法を指定する

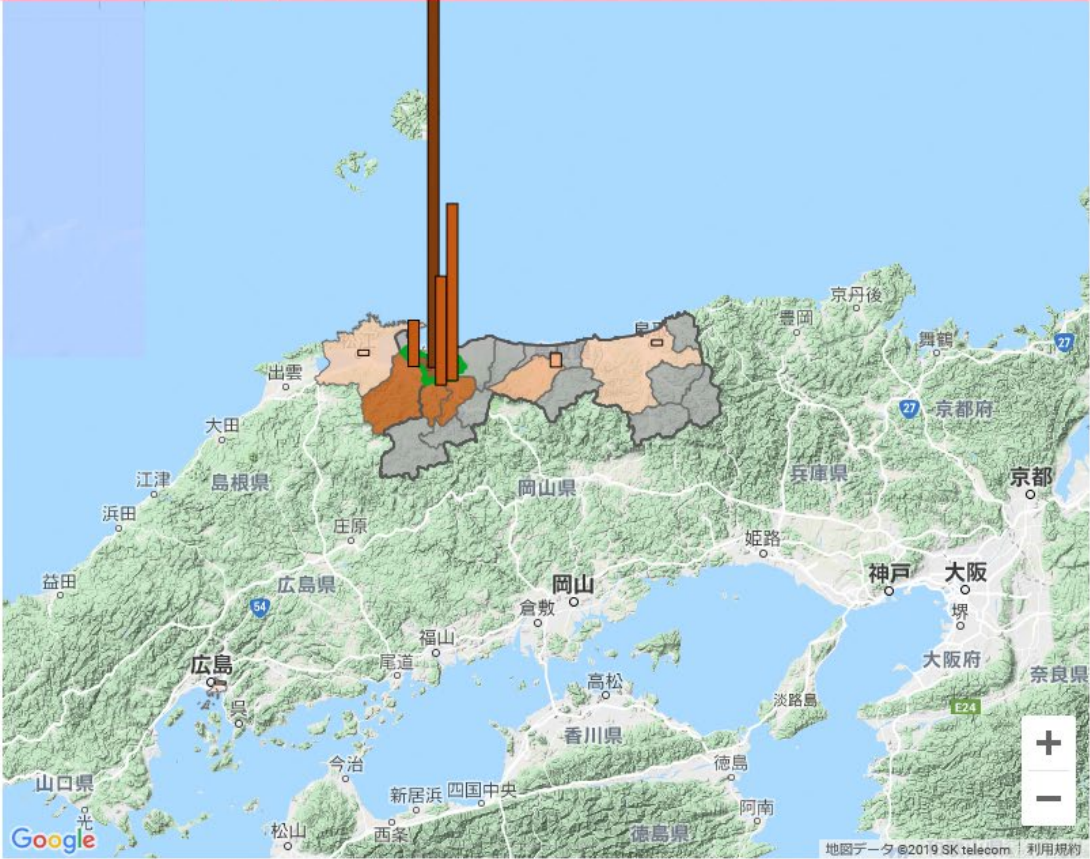
- 患者の住所ベースで表示
- 病院の所在地ベースで表示

本画面では米子市に元住所のある患者が、どこの自治体の精神科病院に入院しているかを表示します。

自治体の指定

- 智頭町
- 鳥取市
- 南部町
- 日南町
- 日吉津村
- 日野町
- 伯耆町
- 北栄町
- 三朝町
- 八頭町
- 湯梨浜町
- 米子市
- 若桜町

年区分を指定する



ReMHRAD : 2018年度 630調査 (精神保健福祉資料) <https://www.ncnp.go.jp/nimh/seisaku/data/> をもとに表示

11:39 2019/10/07

今後の課題2

ピアサポーターは患者にとって、同じ経験をした仲間という「対等性」「心理的な安心感」につながっており、専門家に話せない苦悩を開示でき、回復の助けに



ピアサポーターの活躍の場の拡大と養成

今後の課題3

地域移行先として選択されることの多い
グループホーム。現状として空きが少ない。



自立支援協議会等と連携した基盤整備

最後に

昨年度は関係機関と連携を図り、取組の足掛かりができた。

今後はノウハウを蓄積すると共に、課題に対して西部圏域の状況を加味しながら、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築を目指す。

ご静聴ありがとうございました



鳥取県「眠れてますか？」睡眠キャンペーンキャラクター『スーミン』